

2006年6月13日

Moscow, 103132

Staraya Square 4

ロシア連邦大統領

ウラジーミル・プーチン閣下

私たち、この要望書に署名する3団体は、ロシア国民のみならず日本人にとってもかけがえのないユネスコ世界遺産であるバイカル湖の保護のため、シベリアー太平洋石油パイプラインのルートを変更された閣下のご英断に心からの謝意を表したいと存じます。閣下のご決断は、閣下が正に賢明な指導者であることを実証しており、貴国が今後も発展、繁栄されるであろうことを確信しています。

日本は近い将来、シベリアで採掘された石油を貴国から輸入しようと計画しています。しかしながらこの石油パイプラインの積出港の予定地である、ペレボズナヤ湾に至るルートの建設により、現在の生息数わずか30頭と言われるアムールヒョウの絶滅や、ユネスコの生物圏保存地域にも指定されている貴国の2箇所の貴重な自然保護区、貴国最古のケドロバヤ・パジ自然保護区と閣下ご自身が2002年に視察された貴国唯一の極東海洋保護区の破壊が懸念されています。

私たちは日本がこのことを考慮せず、自国のエネルギー確保のみを優先しつつあることを憂慮しています。日本が東アジアの生物多様性の低下や、象徴種であるアムールヒョウの絶滅に加担するのは、当該国の国民として悲しみに耐えないことです。こうした野生生物は、貴国の科学者や非政府団体、森林監視官の何世代にも渡る努力により現在まで生き永らえてきました。またペレボズナヤ湾にターミナルを建設した際には貴国と日本が共有する海洋が、石油の流出事故によって汚染される危険が他の候補地の17倍にも及ぶとしている調査発表もあり、深く懸念しています。

こうした事実は日本の主要な放送局のひとつであるNHKでも数回に渡り取り上げられ、次第に多くの日本人が問題を認識しつつあります。本年3月には、このパイプラインのターミナルがペレボズナヤ湾から変更されない場合は、日本から融資をしないよう求める3,000余の日本人の署名が、日本政府内閣総理大臣はじめ、関係省庁の閣僚に提出されました。

貴国の、要職を担っておられる3大臣、ゲルマン・グレフ経済発展貿易相、ユーリー・トゥルトネフ天然資源相およびイゴール・レヴィチン運輸相が昨年9月18日、同パイプラインのターミナルを、現在まで開発からまぬがれてきたペレボズナヤ湾から、ナホトカ港近辺の代替地へ変更する可能性について共同声明を発表されたと聞き、私たちは非常に嬉しく思っております。

さらに本年2月1日には、環境・技術・原子力監督庁のコンスタンチン・プリコフスキー長官が、ペレボズナヤ湾でのターミナル建設に関する連邦環境影響評価専門委員会の反対決議を支持しました。ここでは、14名の専門家委員がターミナル候補地を評価した結果、過半数の11名がペレボズナヤにターミナルを建設することは承認できないと判定を下しています。

環境保護団体と貴国政府の主要閣僚がともに、同じ結論に達したのは単なる偶然ではないと存じます。大統領閣下、太平洋岸の石油積み出しターミナルの至近に石油精製プラントを建設することが、貴国にとり重要とされていることは明らかです。しかし、環境面の負荷を低減できるような代替候補地があがっている今、石油積み出しターミナルと石油精製プラントの両方を、ペレボズナヤ湾の狭い湾岸に建設する意味があるでしょうか。

本年5月26日、トランスネフチ社のセムヨン・ワインシュトク社長との会合で閣下は、バイカル湖を守のご決断が、決して貴国企業の利益追求を侵害するものではないと述べられました。貴国の科学者の実施したパイプラインターミナルの建設候補地の比較調査でも、ターミナルをペレボズナヤ以外の場所に建設した方が、

生態系保全の観点からのみならず、有能な労働力や開発の進んだ基盤諸設備の利用できることなど、社会経済的にもプラスであることが示されています。

しかしトランスネフチ社は未だ、パイプラインターミナルの場所として代替地を選ぶか否かについて最終的な判断を下していません。私たちは、同社が再びペレボズナヤ湾でのターミナル建設を主張するのではないかと懸念しています。

貴国や日本の環境保護団体からの要請は、貴国政府の経済、環境関連の主要閣僚や関係庁にも支持されています。この要請を受け入れるよう、閣下よりトランスネフチ社に指示して下さるならば私たちは、感謝の念にたえません。

お目を通していただきありがとうございました。末筆となりましたが、閣下のバイカル湖を保護するご英断に対し重ねて深い尊敬と称賛の念を表し、この書簡を締めくくりたいと存じます。

Sincerely yours,

野口 栄一郎
ロシアタイガプログラム・ディレクター

FoE Japan

〒171-0031 東京都豊島区目白3丁目17番24号 総合設計機構ビル2階
TEL : 03-3951-1081
FAX : 03-3951-1084

坂元 雅行
事務局長

野生生物保全論研究会 (JMCS)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目5番4号 末広ビル5階
TEL/FAX : 03-3595-1171

樋口 隆昌
事務局長

WWF ジャパン

〒105-0014 東京都港区芝3丁目1番14号 日本生命赤羽橋ビル6階
TEL : 03-3769-1713
FAX : 03-3769-1717